

中堅・中小においても導入が進むサーバ仮想化、さらに活性化させるためにはどのような施策が求められるのか？

2014年版 中堅・中小企業におけるサーバ仮想化活用の実態と展望レポート案内

本ドキュメントは「調査対象」「設問項目」および「試読版」を掲載した調査レポートご紹介資料です。

調査対象ユーザ企業属性:	「どんな規模や業種の企業が対象かを知りたい」⇒	1ページ
設問項目:	「どんな内容を尋ねた調査結果なのかを知りたい」⇒	2～3ページ
本レポートの試読版:	「調査レポートの内容を試し読みしてみたい」⇒	4～7ページ

【調査レポートで得られるメリット】

1. 年商/業種/従業員数/地域といった様々な観点で市場動向を把握することができます。
2. 収録されているデータをカタログや販促資料などに引用/転載いただくことができます。

調査対象ユーザ企業属性

本レポートでは以下のような属性に合致する1000件(有効件数)のサンプルを抽出した調査を行っています。情報システムの決済/選定ないしは運用/管理といった適切な職責を持った社員を調査の対象としています。

有効サンプル数: 1000サンプル

年商区分: 5億円以上～10億円未満 / 10億円以上～30億円未満 / 30億円以上～50億円未満 / 50億円以上～100億円未満 / 100億円以上～200億円未満 / 200億円以上～300億円未満 / 300億円以上～400億円未満 / 400億円以上～500億円未満 / 500億円以上～1,000億円未満 / 1,000億円以上 ※上記の年商区分(計10区分)ごとに100サンプルを確保

職責区分: 以下のいずれかの職責を持つ社員

- ・情報システムの導入/構築/運用/管理における意思決定権を持ち、経営にも直接関与する立場
- ・情報システムの導入/構築/運用/管理における意思決定権を持つが、経営には直接関与しない立場
- ・情報システムの導入/構築/運用/管理の計画を立案し、上層部の意思決定を仰ぐ立場
- ・情報システムの導入/構築/運用/管理における実作業を担当する立場

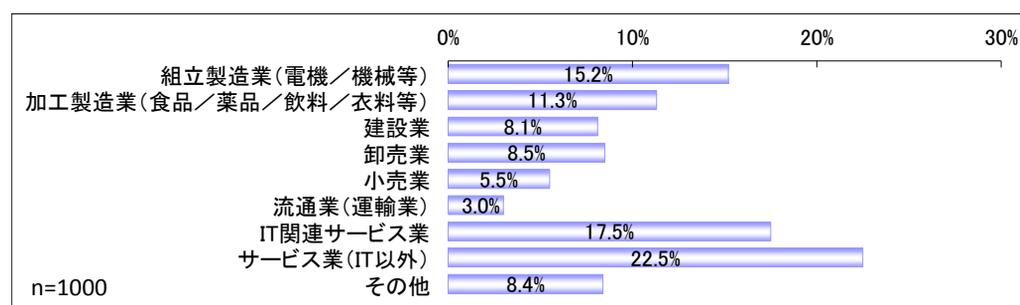
従業員数区分: 10人未満 / 10人以上～50人未満 / 50人以上～100人未満 / 100人以上～300人未満 / 300人以上～500人未満 / 500人以上～1000人未満 / 1000人以上～3000人未満 / 3000人以上～5000人未満 / 5000人以上

業種区分: 組立製造業 / 加工製造業 / 流通業(運輸業) / 建設業 / 卸売業 / 小売業 / IT関連サービス業 / サービス業(IT以外) / その他

地域区分: 北海道地方 / 東北地方 / 関東地方 / 北陸地方 / 中部地方 / 近畿地方 / 中国地方 / 四国地方 / 九州・沖縄地方

調査実施時期: 2014年1月～2月

サンプル抽出は10に細分化された年商区分ごとに100サンプルずつ取得し、企業規模に応じた分析に必要なサンプル数を確保しています。そのため、『従業員数1000人以上の大企業が中心で、中小企業のサンプルはわずかしかない』などといった偏りが生じないように配慮されています。また、以下のグラフは1000件の有効サンプルにおける「業種」による企業属性分布を表したものです。『IT関連サービス業が大半を占めてしまい、実際の業種分布と乖離している』といった偏りがなく、各業種の傾向を把握できるようになっていることが確認できます。



設問項目(1/2)

2014年版のサーバ関連レポートとしては、以下の3つが刊行されており、本レポートは以下の3つの中の(※)にあたります。

- ・2014年版 中堅・中小企業におけるサーバ購入先選定の実態と展望レポート
- ・2014年版 中堅・中小企業におけるサーバ仮想化活用の実態と展望レポート(※)
- ・2014年版 中堅・中小企業におけるサーバ管理課題の実態と対策レポート

3つのレポートの設問項目は3つ全てに共通する「共通設問」と個々のレポートのみに含まれる「個別設問」に分けられます。設問はいずれも与えられた選択肢から該当するものを選ぶ選択式です。とくに記載がない場合は、選択肢を一つのみ選ぶ「単一回答設問」です。設問文の末尾に「いくつでも」「3つまで」といった指定がある場合には「複数回答設問」となります。

[共通設問]

<<導入済みサーバの概要(S1系列)>>

[S1-※]という項番を持つ設問では導入済みサーバに関する概要を尋ねています。

S1-1. 導入済みサーバ台数

S1-2. 導入済みサーバの用途(いくつでも)

各用途選択肢の具体例は以下の通り。

基幹系業務システム:	人事/給与、購買/販売、会計、生産/調達、物流/在庫など
分析/出力系システム:	DWH、BI、レポーティング、帳票など
情報共有システム:	メール、グループウェア、ブログ、SNSなど
営業/顧客管理系システム:	SFA、CRM、コンタクトセンタなど
基本情報インフラ:	セキュリティ、ファイアウォール、バックアップ、DNSなど
部門内利用:	ファイル共有、プリンタ共有
データベース利用:	Oracle DatabaseやMS SQLServerなどを稼働させるサーバ
社外情報システム:	ECサイト、EDIシステムなど
認証管理システム:	ActiveDirectoryやOpenLDAPなどを稼働させるサーバ
簡易作成されたアプリケーション:	Lotus Notes/Domino、サイボウズデデエ、Desknet'sDBなどを利用してユーザ企業自身が作成したアプリケーション

<<導入済みサーバの活用実態(S2系列)>>

[S2-※]という項番を持つ設問は導入済みサーバの活用実態を尋ねたものです。S2系列では[S1-2]で選ばれたサーバ用途のうち重要度の高いものを最大3つまで選び、各々についてサーバのスペック/形状/設置形態といった詳細を尋ねています。1社あたり最大3つまで用途を回答できるため、S2系列の有効回答件数は2508とサンプル企業数の1000よりも多くなります。

S2-1. 導入済みサーバの「用途」(選択肢は[S1-2]と同様)

S2-2. 導入済みサーバの「導入時期」

S2-3. 導入済みサーバの「OSの種類」(WindowsサーバOS各種、UNIX、商用Linux、オフコンなど)

S2-4. 導入済みサーバの「ベンダ名」

S2-5. 導入済みサーバの「CPUタイプ」(CPU数およびコア数によって分類)

S2-6. 導入済みサーバの「サーバ形状」(タワー/ラック/ブレード/マルチノードラック)

「ブレード」と「マルチノードラック」は共に1つの筐体内に複数のサーバノードを集約できるが、前者はノードを統合するバックプレーンを持つもの、後者は持たないものとして区別している

S2-7. 導入済みサーバの「用途別サーバ台数」

S2-8. 導入済みサーバの「導入時の経緯」(新規システムへの新規導入、既存システムへの追加、アップグレードなど)

S2-9. 導入済みサーバの「1台当たりの購入金額」

S2-10. 導入済みサーバの「設置形態」(自社内設置、データセンタ設置、クラウド形態など)

<<導入予定サーバの検討状況(S3系列)>>

[S3-※]という項番を持つ設問では新規導入や増強を検討しているサーバ用途を1つ選び、その詳細について尋ねています。

S3-1. 導入予定サーバの用途(選択肢は[S1-2]と同様)

S3-2. 導入予定サーバの「導入予定時期」

S3-3. 導入予定サーバの「OSの種類」(WindowsサーバOS各種、UNIX、商用Linux、オフコンなど)

S3-4. 導入予定サーバの「ベンダ名」

S3-5. 導入予定サーバの「CPUタイプ」(CPU数およびコア数によって分類)

S3-6. 導入予定サーバの「サーバ形状」(タワー/ラック/ブレード/マルチノードラック)

S3-7. 導入予定サーバの「用途別サーバ台数」

S3-8. 導入予定サーバの「導入時の経緯」(新規システムへの新規導入、既存システムへの追加、アップグレードなど)

S3-9. 導入予定サーバの「1台当たりの購入金額」

S3-10. 導入予定サーバの「設置形態」(自社内設置、データセンタ設置、クラウド形態など)

[S2系列]と[S3系列]の結果を比較することによって、「今後、どんな形状のサーバがどの年商帯で増えるのか?」「これからサーバを販売する上ではどのような導入経緯をターゲットとすれば良いのか(新規システム需要なのか、更新需要なのか)などを知ることができます。

[個別設問]

以下の設問が本レポートに固有の設問群となります。「導入済みサーバにおけるサーバ仮想化の活用状況」および「導入予定サーバにおけるサーバ仮想化の活用検討状況」が主な内容となります。これらの結果を[共通設問]と絡めて見ることによって、「サーバ仮想化の活用において、ユーザ企業はどのような課題を抱えているのか?」「サーバ仮想化提案を今後さらに活性化させるためにはどのような提案内容が望ましいか?」などを知ることができます。

<<導入済みサーバにおけるサーバ仮想化活用状況 (SB1系列)>>

[SB1-*]という項番を持つ設問では導入済みサーバにおけるサーバ仮想化活用状況を尋ねています。

SB1-1A.導入済みサーバにおける「サーバ仮想化技術の活用状況」(いくつでも)

管理/運用の負担軽減、システムの安定稼働、リソースの効率活用といった目的/事由も含む活用状況をサーバ用途単位で尋ねたもの

SB1-1B.導入済みサーバにおける「サーバ仮想化技術の活用状況(概要)」(いくつでも)

[SB1-1B]は[SB1-1A]の選択肢を「活用中」「検討中」といった大まかな状況でまとめたもの

SB1-1C.導入済みサーバにおける「サーバ仮想化技術の活用状況」(いくつでも) (企業単位)

[SB1-1A]の結果をサーバ用途単位ではなく、企業単位で集計したもの

SB1-1D.導入済みサーバにおける「サーバ仮想化技術の活用状況(概要)」(いくつでも) (企業単位)

[SB1-1B]の結果をサーバ用途単位ではなく、企業単位で集計したもの

SB1-2.導入済みサーバにおいて「導入済み/導入予定のサーバ仮想化ソフトウェア(ハイパバイザ)」

ここでの「ハイパバイザ」には独自のハードウェア機構(x86系CPUに備わる汎用的な仮想化対応機能ではないもの)による仮想化環境の実現手段は含みません(そうした独自手法との混同を防ぐため、「サーバ仮想化ソフトウェア」という表現を用いています)

SB1-3.導入済みサーバにおいて「サーバ仮想化環境を管理する方法」(サーバ同梱ツール、運用管理ソフトウェアなど)

SB1-4.導入済みサーバにおいて「導入済み/導入予定のサーバ仮想化ソフトウェアを選んだ理由(いくつでも)」

[SB1-2]で尋ねた具体名(「VMware ESX/ESXi」「Microsoft Hyper-V」など)ごとに選択理由を知ることができます

SB1-5.導入済みサーバにおける「サーバ仮想化技術活用の障壁」(いくつでも)

「仮想化環境を構築するための費用負担が重い」「投資対効果が不明確」といった様々な課題に関する選択肢を網羅しています

<<導入予定サーバにおけるサーバ仮想化活用の検討状況 (SB2系列)>>

[SB2-*]という項番を持つ設問では導入予定サーバにおけるサーバ仮想化活用検討状況を尋ねています。

SB2-1A.導入予定サーバにおける「サーバ仮想化技術の活用状況」(いくつでも)

管理/運用の負担軽減、システムの安定稼働、リソースの効率活用といった目的/事由も含む検討状況をサーバ用途単位で尋ねたもの

SB2-1B.導入予定サーバにおける「サーバ仮想化技術の活用状況(概要)」(いくつでも)

[SB2-1B]は[SB2-1A]の選択肢を「活用中」「検討中」といった大まかな状況でまとめたもの

SB2-2.導入予定サーバにおいて「導入済み/導入予定のサーバ仮想化ソフトウェア」

ここでの「ハイパバイザ」には独自のハードウェア機構(x86系CPUに備わる汎用的な仮想化対応機能ではないもの)による仮想化環境の実現手段は含みません(そうした独自手法との混同を防ぐため、「サーバ仮想化ソフトウェア」という表現を用いています)

SB2-3.導入予定サーバにおいて「サーバ仮想化環境を管理する方法」(サーバ同梱ツール、運用管理ソフトウェアなど)

SB2-4.導入予定サーバにおいて「導入済み/導入予定のサーバ仮想化ソフトウェアを選んだ理由」(いくつでも)

[SB1-2]で尋ねた具体名(「VMware ESX/ESXi」「Microsoft Hyper-V」など)ごとに選択理由を知ることができます

SB2-5.導入予定サーバにおける「サーバ仮想化技術活用の最も大きな障壁」

「仮想化環境を構築するための費用負担が重い」「投資対効果が不明確」といった様々な課題選択肢を網羅しています

SB2-6.サーバ仮想化における最も大きな障壁を回避/解決するために有効な取り組み(いくつでも)

[SB2-5]で挙げられた課題毎に有効と考えられる解決策を知ることができます

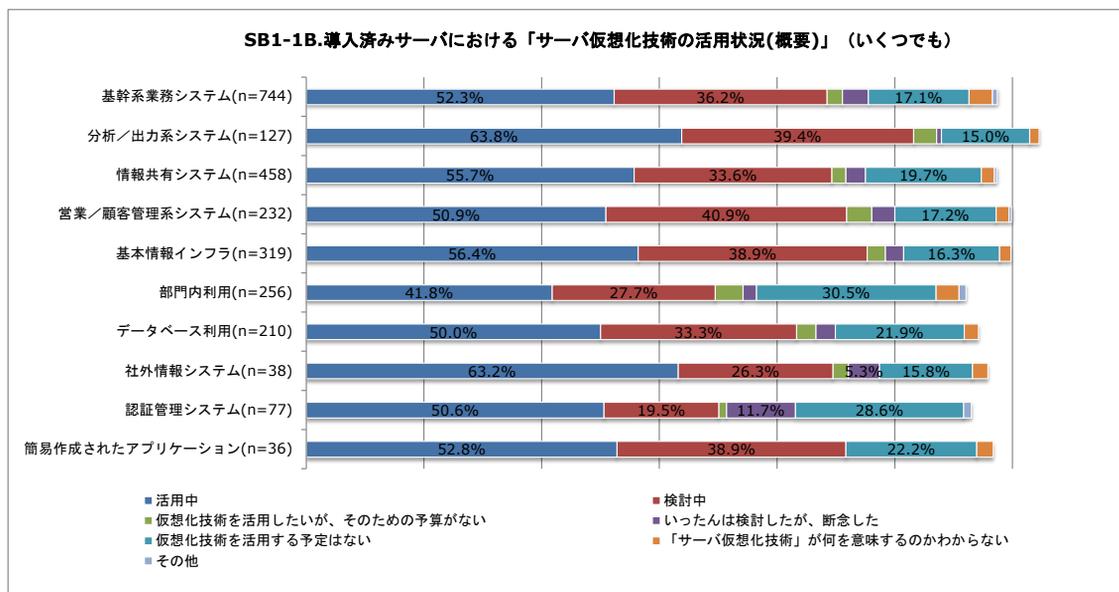
本レポートの「分析サマリ」では40ページに渡り、サーバ仮想化活用における重要ポイントなどを調査データを交えて解説しています。以下のレポート試読版では「分析サマリ」の一部を紹介しています。

導入済みサーバにおける仮想化活用の実態

本章では導入済みサーバにおける仮想化活用の実態をサーバの用途、OS、ベンダ名、GPU、形状、導入時の経緯、設置形態といった観点で見ていくことにする。本章に掲載される集計データはいずれも「企業単位」ではなく、「サーバ用途単位」でのデータとなる。対象となるユーザ企業に「導入済みサーバ用途のうち、重要度の高いもの」を最大3つまで挙げてもらい、そのそれぞれについてサーバ仮想化の活用有無、OS、ベンダ名などの詳細を尋ねたものだ。したがって、以下のデータは「今後、サーバ仮想化を訴求する際に有効なサーバ用途は何か?」「サーバ仮想化環境としてユーザ企業が選択しているスペックはどのようなものか?」などを知る際に特に有用である。

[導入済みサーバの用途と仮想化活用との関係]

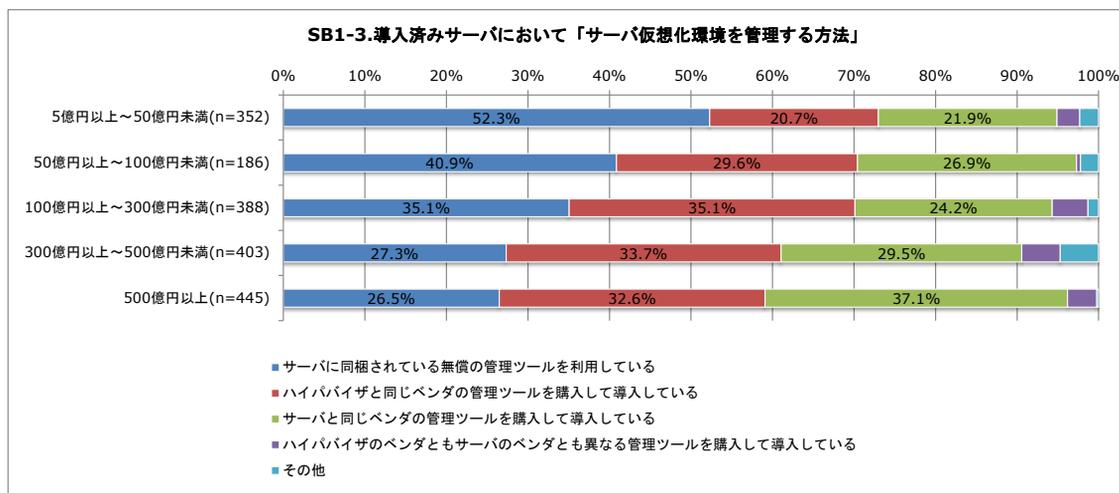
以下のグラフは年商5億円以上のユーザ企業に対し、導入済みサーバの用途別にサーバ仮想化の活用状況を尋ねた結果である。(集計データ¥質問間クロス集計データ¥SB1 系列 ¥[SB1-1B] ([S2-1]表側).xls)



上記のグラフを見ると、「分析/出力系システム」(DWH、BI、レポート、帳票など)や「社外情報システム」(EC サイト、EDI システムなど)といったサーバ用途において、サーバ仮想化を「活用中」とする回答割合が比較的高くなっている。前者は処理すべきデータ量に応じて求められるサーバの CPU やメモリも大きく変わる。また後者においては社外からのアクセス数が増えるため、それに対し迅速に対処することが求められる。このように柔軟なリソース変更が求められる用途においてサーバ仮想化の活用割合が高くなっていることがわかる。

さらに「分析サマリ」ではサーバ仮想化の活用率だけでなく、「サーバ仮想化環境がどのように管理されているか？」などといった管理/運用の詳細についても触れています。以下は導入済みサーバにおけるサーバ仮想化環境の管理手法の概況について触れた部分の抜粋です。これに加えて、「分析サマリ」内では「VMware ESX/ESXi」や「Microsoft Hyper-V」などといった具体的なハイパバイザによって管理/運用の手法がどう変わってくるか？といった詳細についても触れています。

以下のグラフは導入済みサーバにおけるサーバ仮想化環境の管理方法を尋ねた結果を年商規模別に集計したものだ。(集計データ¥主要分析軸集計データ¥[SB1 系列] ([A2] 表側). xls)



上記のグラフにおける選択肢の補足説明は以下の通りである。

「ハイパバイザと同じベンダの管理ツールを購入して導入している」の具体例

VMware ESX/ESXi の場合には vCenter Server

Microsoft Hyper-V の場合には Microsoft SystemCenter

「サーバと同じベンダの管理ツールを購入して導入している」の具体例

富士通製サーバであれば Systemwalker

NEC 製サーバであれば Web SAM

「ハイパバイザのベンダともサーバのベンダとも異なる管理ツールを購入して導入している」の具体例

Senju Family など

上記のグラフを見ると、年商規模が大きくなるにしたがって「サーバに同梱されている無償の管理ツールを利用している」の回答割合が低くなり、逆に「ハイパバイザと同じベンダの管理ツールを購入して導入している」や「サーバと同じベンダの管理ツールを購入して導入している」の回答割合が高くなる。年商規模に応じてシステム規模が拡大することを考えれば当然の結果といえるだろう。

レポート試読版3(「主要分析軸集計データ」)

「設問項目」に掲載した設問結果を年商、業種、従業員数、地域といった基本属性を軸として集計したものは「主要分析軸集計データ」と呼ばれ、Microsoft Excel形式で同梱されています。

以下の試読版に掲載したものは「業種」を集計軸とし、「導入済みサーバにおけるサーバ仮想化活用状況」の各設問項目を集計したものです。

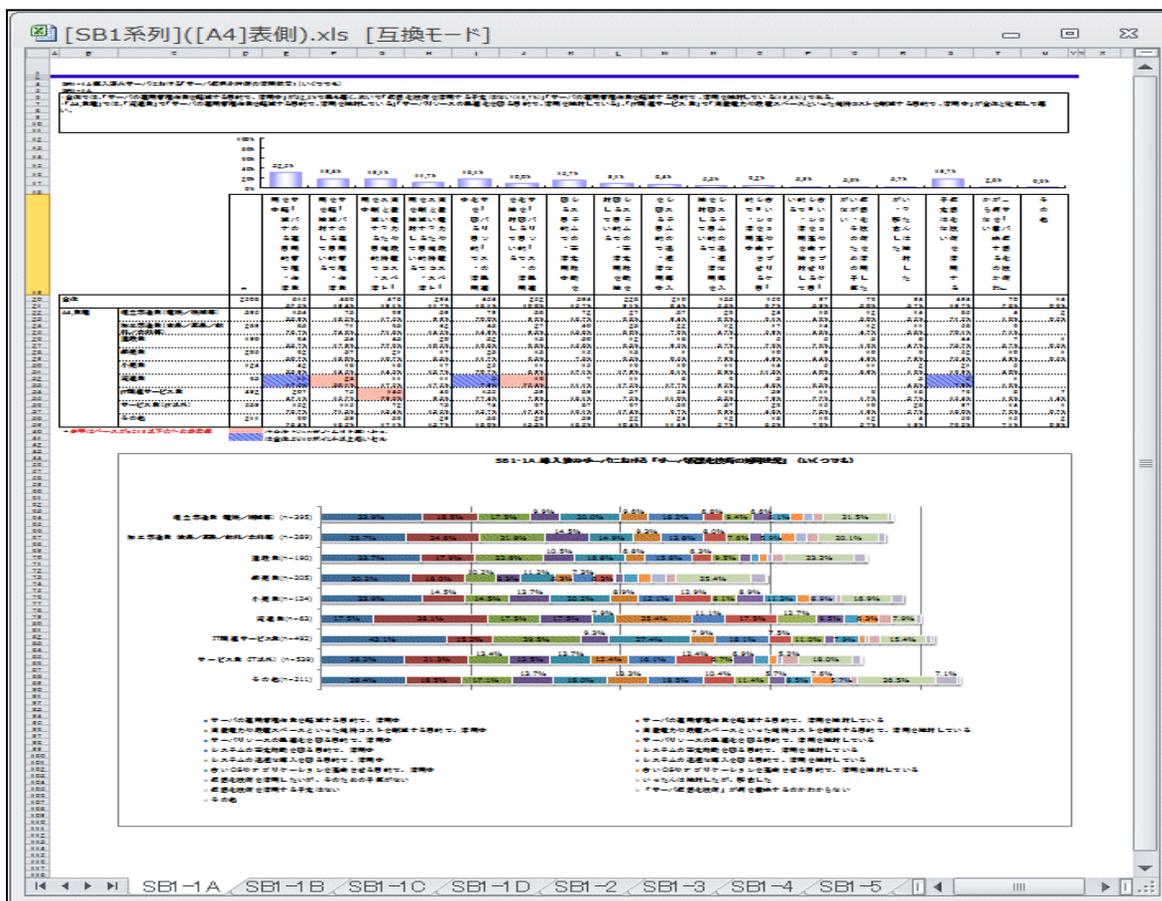
画面の左上部に記載されたファイル名は『[SB1系列]([A4]表側).xls』となっています。[SB1系列]は、レポート案内の3ページにも記載がある通り、「導入済みサーバにおけるサーバ仮想化活用状況」に関する設問群を表します。[A4]は基本属性の4番目である業種を表しています。このようにファイル名を見れば「どの設問について何を軸として集計したものか？」がすぐわかるようになっています。

画面の最下部からは多数のシートがあることがわかります。この1シートが1つの設問結果データに相当します。[SB1系列]には全部で8つの設問があり、主要分析軸となる属性は詳細年商/年商/職責/業種/所在地(地域)/従業員数/IT管理運用体制の7項目ありますので、[SB1系列]のみに限った場合でも主要分析軸集計データのシートは8×7=56あることとなります。(本レポート全体での主要分析軸集計データのシート数は数百に及びます)

個々のシートには画面上部に軸を設定しない状態の縦帯グラフ、画面中央には年商や業種といった属性軸を設定して集計した結果の数表データ、画面下部にはその数表データを横帯グラフで表したものが掲載されるという書式になっています。

こうした「主要分析軸集計データ」を見れば、
 「年商規模によって、サーバ仮想化の活用状況がどう変化するか?を知りたい」
 「サーバ仮想化活用における課題は何か?に関する業種毎の違いを確認したい」
 「サーバ仮想化の活用率の高さに地域性が関係しているのかどうかを確かめたい」
 といったことを客観的な見地から数量的に確認することができます。

ただし、「年商5億円以上～50億円未満かつ組立製造業」といったように2つ以上の属性を掛け合わせたものを軸とした集計結果については本レポートの標準には含まれません。



レポート試読版4(「質問間クロス集計データ」)

「設問項目」に掲載した設問結果を他の設問結果を軸として集計したものが、「質問間クロス集計データ」です。主要分析軸集計データと同様にMicrosoft Excel形式で同梱されています。

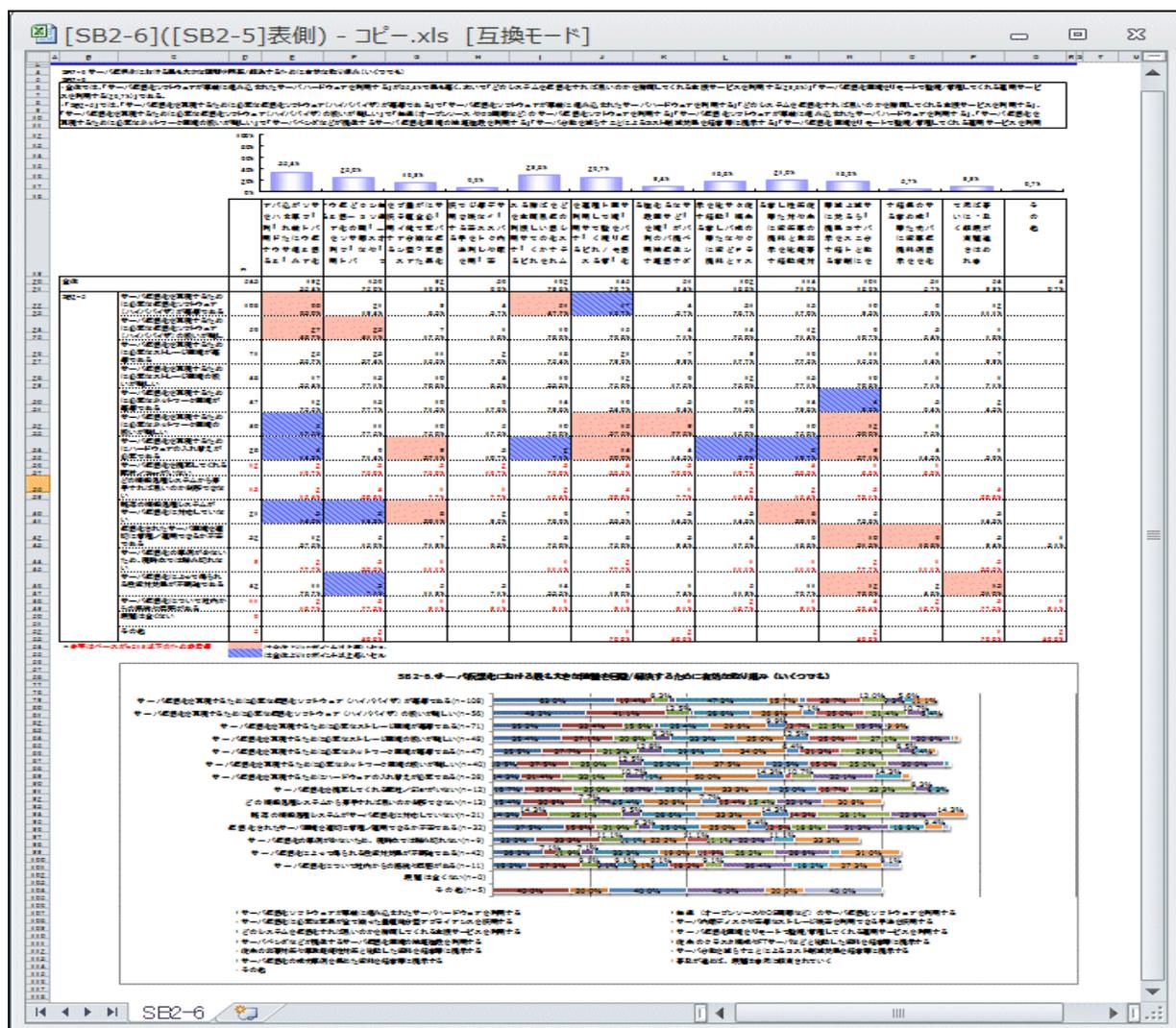
以下の試読版に掲載されているのは「サーバ仮想化における最も大きな障壁を回避/解決するために有効な取り組み」について尋ねた結果を「サーバ仮想化技術活用の最も大きな衝撃」を集計軸とし、有効な取り組みは何か？障壁ごとに確認できるようにしたものです。

画面の左上部に記載されたファイル名は『[SB2-6]([SB2-5]表側).xls』となっています。本レポート案内の3ページに記載があるように、項番[SB2-6]は「サーバ仮想化における最も大きな障壁を回避/解決するために有効な取り組み(いくつかでも)」という設問を指します。一方、[SB2-5]は「導入予定サーバにおける『サーバ仮想化技術活用の最も大きな障壁』」を尋ねた設問を指します。前者の結果を後者を軸として集計することによって、「課題Aの解決策」や「課題Bの解決策」といった詳細を知ることができます。

さらに『[SB2-6]([SB2-5]表側).[A2]表肩.xls』というファイルも存在します。[A2]は年商区分を指しますので、このファイルは上記に述べた結果をさらに年商別に分けて集計したものとなります。

このように本レポート内には複数の設問同士を互いに集計した結果が数多く含まれ、それらを見ることによってサーバ仮想化提案の参考となる様々な知見を得ることができます。

個々のシートには画面上部に軸を設定しない状態の縦帯グラフ、画面中央には特定の設問を軸として設定した集計結果の数表データ、画面下部にはその数表データを横帯グラフで表したものが掲載されるといった書式になっています。



本レポートの価格とご購入のご案内

【価格】180,000円(税別)

【媒体】CD-ROM (分析サマリ: PDF形式、集計データ: Microsoft Excel形式)

右記より本レポートのダイジェスト(サンプル)をご覧ください http://www.norkresearch.co.jp/pdf/2014server_usr_rel1.pdf

【姉妹編レポート】

「2014年版 中堅・中小企業におけるサーバ購入先選定の実態と展望レポート」

ユーザ企業はどのような基準でサーバの購入先を選び、どのようなきっかけで購入先を変更するのか？

レポート案内: http://www.norkresearch.co.jp/pdf/2014server_usr_rep2.pdf

価格: 180,000円(税別)

「2014年版 中堅・中小企業におけるサーバ管理課題の実態と対策レポート」

ユーザ企業の多くが抱えるサーバ管理の課題、それを解決するための対策を様々な角度から分析

レポート案内: http://www.norkresearch.co.jp/pdf/2014server_usr_rep3.pdf

価格: 180,000円(税別)

※姉妹編レポートと併せて二冊同時購入の場合は240,000円(税別)

※姉妹編レポートと併せて三冊同時購入の場合は380,000円(税別)

お申込み方法:

ホームページ(<http://www.norkresearch.co.jp>)から、またはinform@norkresearch.co.jp宛にメールにてご連絡ください

その他のレポート最新刊のご案内

各レポートは「調査リリース」という形で以下URLよりダイジェスト/サンプルをご覧ください。

<http://www.norkresearch.co.jp/result/release.html>

※各「レポート案内」の末尾にもダイジェスト/サンプルのURLが記載されています

「2013年版 中堅・中小企業のITアプリケーション利用実態と評価レポート」

14分類に及ぶ製品/サービスの社数ベース導入シェア、ユーザ企業評価、これから重視すべきニーズを集約

レポート案内: http://www.norkresearch.co.jp/pdf/2013itapp_rep.pdf

価格: 180,000円(税別)

「2013年版 中堅・中小企業の業務システム購入先のサービス/サポート評価レポート」

クラウドやスマートデバイスといった新たな商材の登場は購入先/委託先の分散を引き起こす要因となるのか？

レポート案内: http://www.norkresearch.co.jp/pdf/2013SP_rep.pdf

価格: 180,000円(税別)

「2013年版 中堅・中小企業におけるERP/BI活用の実態と展望レポート」

ERPやBIの製品やソリューションを提供するIT企業が次の一手として何に注力すべきかの具体策を与える一冊

レポート案内: http://www.norkresearch.co.jp/pdf/2013ERP_usr_rep.pdf

価格: 180,000円(税別)

「2013年版 中堅・中小企業におけるIT投資の実態と展望レポート」

IT投資を広く底上げする政策が不足する中、今後期待される成長分野/業種はどこなのかを明らかにした一冊

レポート案内: http://www.norkresearch.co.jp/pdf/2013IT_usr_rep.pdf

価格: 180,000円(税別)

本データの無断引用・転載を禁じます。引用・転載をご希望の場合は下記をご参照の上、担当窓口にお問い合わせください。

引用・転載のポリシー: <http://www.norkresearch.co.jp/policy/index.html>

本ドキュメントに関するお問い合わせ

NORKRESEARCH

株式会社 ノークリサーチ 担当: 岩上 由高

東京都足立区千住1-4-1 東京芸術センター1705

TEL 03-5244-6691 FAX 03-5244-6692

inform@norkresearch.co.jp

www.norkresearch.co.jp